

講義名	国際経営論【人間社会学部】			
担当教員	今西 珠美			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要				
主題：国境をまたいで活躍する多国籍企業の歴史・主要理論・経営の諸相について総合的に学びます。				
概要：海外進出を限り複数の国々で事業を展開したり、外国企業と共同で事業を行ったりする企業は増えています。本科目ではこのような企業の国際経営活動に関する基本的知識を修得し、マーケティング、生産、研究開発、人的資源管理などの諸相における主要理論を理解します。				
将来、国際的な視野に立って社会に貢献できるような人材になるための能力を身につけます。				

到達目標				
一国内で活動する企業と複数の国々で活動する企業の違いを知り、グローバルに事業を展開する多国籍企業の国際経営の複雑性について理解できるようになります。				
提出課題				
随時、課題を提示します。				

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
授業時や解答例を提示する際に講評します。メールで個別に対応することもあります。				
評価の基準				
学習成果（理解度）を評価します。出欠はとりません。提出課題の内容や取り組み姿勢、理解度を評価します。定期試験・提出課題（85%）、授業姿勢など（15%）を予定しています。オンデマンド授業になった場合、提出課題（85%）、授業姿勢など（15%）になります。				

履修にあたっての注意・助言他				
この履・限の受講対象は人間社会学部生です。所属学部に注意して履修してください。教科書に沿って授業を進めます。教科書は必ず授業時に手元にあるようにしてください。課題にはしっかり取り組んでください。提出回数だけでなく、その内容が重要です。				

教科書				
・『はじめての国際経営』	中川功一・林正・多田和美・大木清弘	有斐閣（有斐閣ストア ディア）	1,980円	978-4-641-15017-1

プリント資料及び参考文献				
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年。 浅川和宏・伊田昌弘・臼井哲也・内田康郎監修、多国籍企業学会編『未来の多国籍企業』文眞堂、2020年。 井上真理編『グローバル・ビジネス』新世社、2020年。 江夏健一・奥名義晴編『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（第4版）』同文館出版、2018年。 安室憲一監修、吉沢昌之・山口隆英編『安室憲一の国際ビジネス入門』白桃書房、2019年。 吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣（有斐閣ブックス）、2002年。				

授業計画				
1 国際経営とは何か 2 海外直接投資の理論 3 多国籍企業による国際競争の歴史 4 多国籍企業の組織デザイン 5 トランスナショナル経営 6 海外子会社の経営 7 国際マーケティング 8 国際マーケティングの事例研究 9 ものづくりの国際拠点展開 10 研究開発の国際化 11 国際的な人的資源管理 12 国際的な人的資源管理の事例研究 13 国際パートナーシップ 14 日本企業とのさらなる国際化のために 15 総括				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク		
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク		
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
授業の予習（約120分） 教科書の該当章を音読して授業に臨んでください。事前に読む章の番号は授業回と同じです。 【予習する教科書の章番号】＝【授業回】ということ。 例えば、第3回目に向けた予習では第3章を読んで授業に備えてください。 授業の復習（約120分） 授業でキーワードを提示しますので、各自の内容確認を入念に行ってください。さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。参考文献の利用も推奨します。自ら進んで調べ理解度を高めましょう。				

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
当科目を学ぶことによって、事業の仕組みや経営構造、組織行動について経営理論に基づき、自ら考え、理解する能力が身につきます。特にグローバルな側面に焦点を当てる科目であることから、国際的な視点に立って、企業や組織がグローバルに事業を展開する上で直面する現状と課題を分析し、その解決策やさらなる発展をもたらすための新たな価値を作り出す想像力と提案力を身につけることができますようになります。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
ポータルのシステムを促って資料の提示、課題の提出や確認を行う予定です。また、ポータルのレポート機能（例えば、課題提出時のコメント欄）やメールを活用してコミュニケーションを図っていきたいと思います。対面授業の場合、問いかけますので、挙手や発言などを通じて積極的に授業に参加、協力してください。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験なし				

備考				
新型コロナウイルス感染症の状況によりオンデマンド授業となった場合、シラバスが修正される可能性があります。				